

直近の国際動向 ～第70回SMDGの結果概要～

「国際海上輸出コンテナの安定的な輸送に必要な重量確定・情報伝達等のあり方に係る検討会」

2017/10/11(水)



東京海洋大学学術研究院

流通情報工学部門

渡部 大輔

SMDGの現状

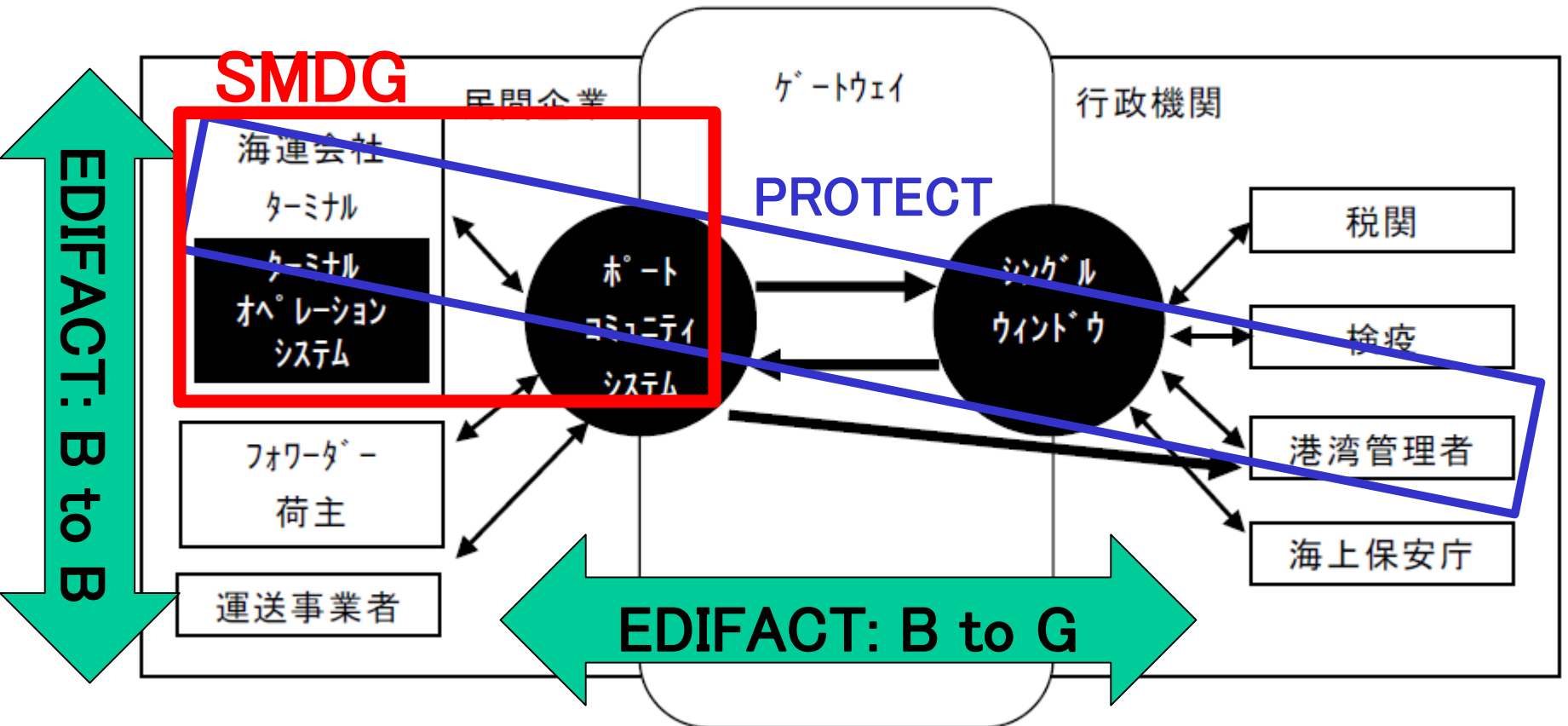
- ・ SMDG: Global User's Group for Shipping Lines and Container Terminals
 - UN/CEFACTの公式ユーザーグループ(非営利団体)→UN/EDIFACTにおける海運関係のEDIメッセージを開発
 - ・ 1987年設立(Ship-planning Message Design Group), 日本:1993年から参加
 - ・ 年二回(春, 秋), 30-45名が参加
 - メンバー: 船社, 港湾管理者, ターミナル会社, システム会社, コンサルティング会社
 - ・ 議長: Bruis van Driel (APMT), 事務総長: Arthur Touzot (ATSEA Consulting) →2016/10から新体制
 - ・ メンバー企業: 海運・コンテナターミナル業界シェア合計で75%以上
 - 使用実績: 年間4億トランザクション(一日当1000万)
 - ・ 例: 18000TEUコンテナ船入港時の手続き=A4サイズ800枚の書類→電子化(BAPLIEメッセージ)による効率化

UN/EDIFACT

- UN/EDIFACT (Electronic Data Interchange for Administration, Commerce and Transport)
 - 行政、商業、運輸のための電子データ交換国連規則集 (1987年)
 - 国際商取引のペーパーレス化を目指し、EDI のための国際標準
- UN/CEFACT (Center for Facilitation of Procedures and Practices for Administration, Commerce and Transport)
 - 行政、商業、運輸のための手続きと実務簡素化センター
 - 国連欧州経済委員会貿易手続簡易化作業部会 (UN/ECE/WP.4) を発展的に改組 (1993年)
 - EDI に係わる国際標準化: 国際標準としてUN/EDIFACT や ebXML の開発に向けた研究及び普及

港湾物流における情報システム

- ・ UNCEFACTのユーザーグループ
 - SMDG: B to Bに特化(船社・ターミナル間)

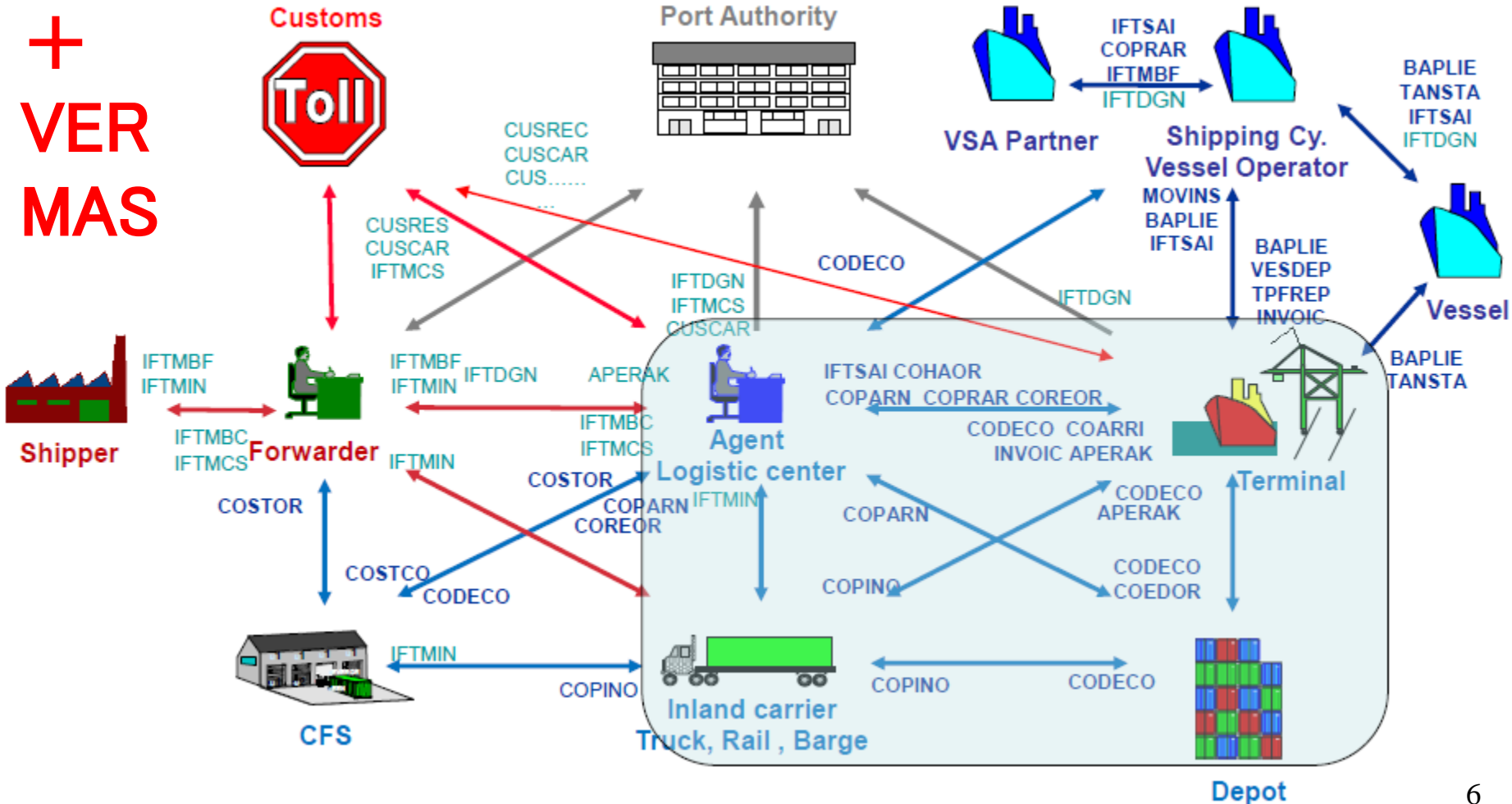


UN/EDIFACTメッセージ:SMDG担当分

分類	名称	内容
Ship Planning	BAPLIE	Bayplan Message
	MOVINS	Stowage Instruction Message
Container Messages	COPRAR	Container Discharge and Loading List
	COARRI	Container Discharge and Loading Confirmation
	CODECO	Container Delivery Confirmation
	COPARN	Container Pre-Announcement and Release Notice
	COPINO	Container Pick-Up Notification
	COREOR	Container Release Order
	COEDOR	Stock Report
Vessel Schedules	VESDEP	Vessel Departure Message
	IFTSAI	Schedule Requests and Reports
Various Messages	INVOIC	Freight Cost and other Charges
	TANSTA	Tank Status Message
	TPFREP	Terminal Performance Report
	IFTSTA	Status Message
	IFCSUM	Summery
	IFTMIN	Instruction
	IFTMBF	Booking Firm
	SHPDAT	Ship Technical Data Message
	VERMAS	Verified Gross Mass Message

UN/EDIFACTメッセージ:SMDG担当分

(例)コンテナ物流関連



UN/EDIFACTメッセージ:SMDG担当分

- 新規開発メッセージの開発(2016/6):VERMAS(Verification of Gross Mass)
 - 開発プロセス

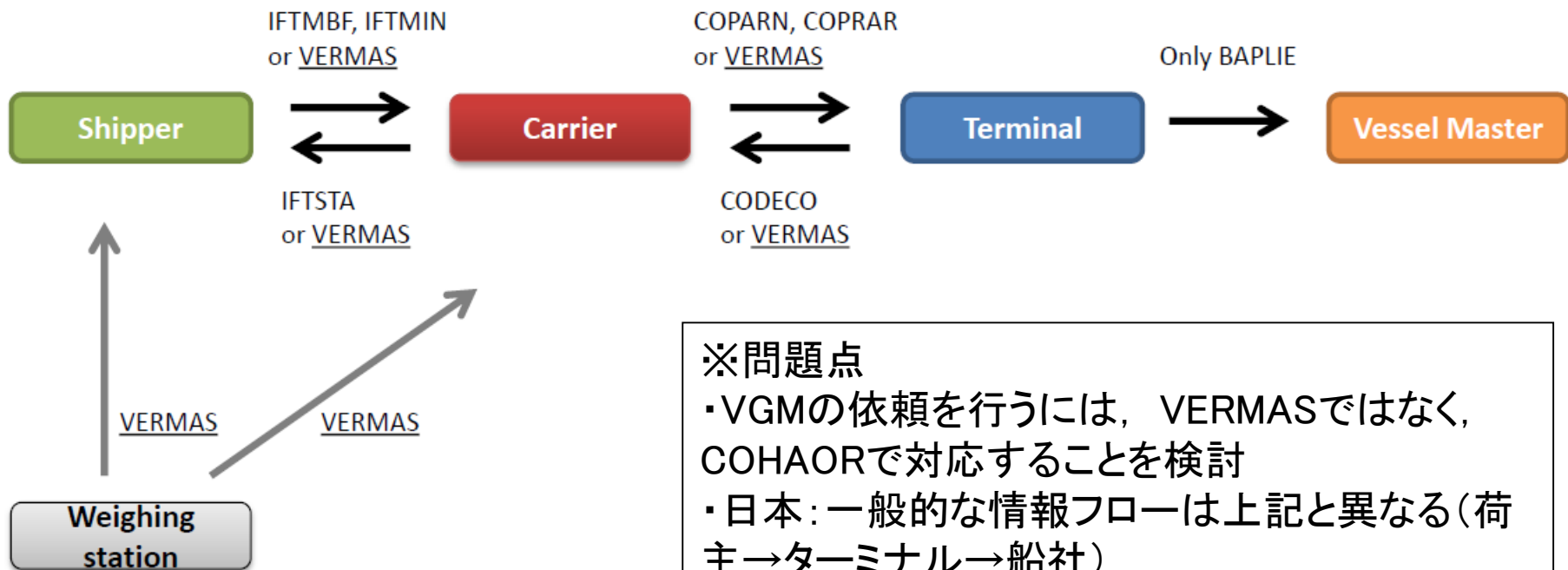
時期	内容
2014/11	IMOよりガイドライン発表
2014/12	SMDGにて検討開始
2015/4	SMDG会合にて新規メッセージ開発作業を承認
2015/7	T&Lグループ(CEFACT)が開発作業を承認・支援
2015/9	SMDG会合にて提案内容を承認
2015/11	CEFACT会合にて承認→新規メッセージVERMAS0.4発表
2016/2	CEFACTプロジェクト開始
2016/4	CEFACTより正式に承認
2016/6	新規メッセージVERMAS1.0発表
2016/7	VGM運用開始
2016/9	CEFACTプロジェクト終了

SMDG開発メンバー

- Michael Schröder (Hapag-Lloyd, chair)
- Jost Müller (Müller&Blanck Software)
- Paul Wauters (PSA Antwerp)
- Stefano Ottonello (MSC Le Navi)
- Yoshi Kito (EDI Expert)

UN/EDIFACTメッセージ:SMDG担当分

- ・ VERMAS (Verification of Gross Mass)
 - VGMの情報フロー: 荷主→船社→ターミナル→船舶
 - VERMAS: 他のメッセージと異なり, 荷主や計量機関との情報のやり取りを取り扱う



※問題点

- ・VGMの依頼を行うには, VERMASではなく, COHAORで対応することを検討
- ・日本: 一般的な情報フローは上記と異なる(荷主→ターミナル→船社)

第70回会議開催概要

- ・ 開催地：サンクトペテルブルク市（ロシア）
- ・ 開催日：2017年9月26日（火）～28（木），
 - 1日目：Subgroup meeting
 - 2日目：Plenary session
 - 3日目：Intercompany communications and process review
- ・ 参加者数：25名
 - 船社：MSC, Hapag Lloyd, CMA-CGM, ZIM, Nile Dutch Africa Line, Maersk（今回は不参加）
 - ターミナルオペレーター：PSA, APM Terminals, HHLA, Bollore terminal, Mersin International port, Eurogate Container Terminal Hamburg
 - システム会社・コンサルタント：ATSEA Consulting, XVELA, Hyland Software, Kockumation, GEFEG, SOLVO, KL-net

第70回会議 議題

- ・ 前回会議の議事録確認
- ・ 運営に関する現況報告
 - － 登記, 予算等
- ・ メッセージ開発状況
 - － CODELIST, BIC
 - － VGM, VERMAS
 - － BAPLIE/MOVINS
 - － GEFEG/EDI validation
 - － Container Message
 - － IFTISAI
 - － TPFREP
- ・ 次回開催
 - － 2018年4月パリ(BIC)を予定

第70回会議 メッセージ開発状況

- ・ VERMAS (Verification of Gross Mass)
- ・ 修正要求事項
 - VGMオーダーへの対応→却下(既存メッセージ COHAORで対応を検討)
 - 新しい修飾子(コンテナの順番:SQ)の追加
 - 計量機器のシリアル番号の追加(イタリアより要求)
- ・ 今後のための議論
 - サービスプロバイダー(INTTRA社)が作業に参加

第70回会議 メッセージ開発状況

- Container Message
- 修正要求事項
 - ユーザーマニュアル (Message Implement Guideline: MIG) のVersion間での不整合 (COPINO & COPARN)
 - リーフアーユニットでのAir Fresh Vent Sealへの対応 (D.00BとD.95B)
 - 税関でのスキャンへの移動への対応
 - 空コン積載への対応メッセージ (COPRAR)
 - 危険物の参照 (COPRAR)
- 今後のための議論
 - Generic Structure (汎用的構造) の採用
 - ユーザーマニュアルの更新 (D.18B)
 - XMLやAPI等のWebサービスへの対応

第70回会議 メッセージ開発状況

- ・ TPFREP (Terminal Performance Report)
 - 2008年: Hapag Lloydで運用開始 (バージョン3.0)
 - 2012年: バージョン4.0開発
 - 2016年: 新規グループ立ち上げ
- ・ 現状把握
 - TOSとの連携, 他システムからデータ作成
 - バージョン3.0ベースが多い→4.0を準備中の企業あり
 - 一部ターミナルで導入の企業あり
 - 独自システムで運用している企業あり
- ・ 修正要求事項
 - バージョン4.1の開発開始 →必要な仕様に関する意見集約

第70回会議 事例紹介

- ・ 韓国 (Mr. Lee Taek Min, KL-Net)
 - 港湾保安検査報告に関する新メッセージ提案
 - ・ 米国向け全スキャン(2018-), 3D高速コンテナスキャン, コンテナX線検査, 車両ガンマ線検査, 放射線, コンテナ重量計測(VGM)
 - ・ バラスト水報告(2017/9-):IMO関連?
 - 既存メッセージとの整合性を確認すべき(Yoshi)
- ・ 日本 (鬼頭吉雄氏)
 - 一般的な情報フロー(荷主→ターミナル→船社)+紙媒体の搬入票が多い+計量に対する質の保証の重要性
 - VGMのオーダーメッセージへの対応
 - ・ COHAORメッセージで検討

まとめと感想

・ まとめ

- 国際標準の継続的な見直し→ユーザー(船社, 港湾)+システムの利害調整→国際海運の効率化へ貢献大
- VGM: 新規メッセージ開発で早急な対応＝継続的な活動の賜物→今後, 各国からの修正要求への対応
- バージョンアップに合わせたユーザーマニュアル(Message Implement Guideline)の更新の必要性
- EDIの資産を活かしたWeb関係の新技術との連携・融合へ

まとめと感想

・ 感想

- デジュール・スタンダード: 話し合いによる国際標準
→当事者が多く時間はかかる⇔デファクト・スタンダード
 - ・ SMDG(年二回)で作業方針確認→分科会で作業→SMDGで承認→CEFACT(年二回)へ提出
 - ・ 継続的な維持管理+新規開発(短期集中的作業+CEFACT等外部組織との調整)
- PDCAサイクル→継続的に参加し, 常に関係者の動向を確認する必要大